



トウキの花が咲いています。
まるで花束のようです。

トウキ *Angelica acutiloba* Kitagawa (セリ科)

トウキ

5月下旬から御陵園ではトウキの花が咲き始めました。5㎝程の小さな白い花が沢山集まって咲く姿はとても美しく、まるで一つの花束を見ている心地になります。繊細さの一方で、どこことなく、たくましさや力強さも感じます。花の側を通るとほのかに甘い独特な香りがします。

トウキはその根が当帰という生薬になり、婦人薬に用いられます。

また、葉は入浴剤に用いられたり、最近では乾燥させ、粉末にして食用にする試みもなされているようです。この葉をちぎって、揉むとセロリのような香りがします。

時折、来園者の方々には葉の香りを嗅ぐ体験してもらっています。この香りは好き嫌いがわかれます。

一般的にトウキは、種をまいて栽培します。御陵園では種をまいて発芽してから2年目の株が60cmほどの草丈になり、開花します。最初の一年は花を咲かせるまでの生長期間であり、準備期間だと考えられます。

花が咲いた後、秋には沢山の果実が実ります。



トウキをじっくり観察してみましょう。



トウキの葉

3 出複葉、2 回 3 出複葉のものが
あり、小葉には鋸歯があります。
この葉は 20 cm ほどの大きさ。



花序は複散形花序。一点から放射状に花茎
が伸び、まるで傘のような形をしています。



花は直径 3~5 mm くらいの大きさで、花弁
が 5 枚あります。内側にあるのは蕾です。



当帰の生薬標本を見ると根
が綺麗にまとめられていま
す。この標本は 25 cm ほどの
大きさがありました。



トウキの果実には縦筋が見られ、
大きさは 5 mm ほどです。果実にも
独特の香りがあります。



茎は赤紫色を帯びています。葉柄の基部
は鞘状になり、茎を包むようにつきます。



PHOTO GALLERY



— 御陵園の植物写真 —



カイケイジオウ（ゴマノハグサ科）
根が地黄（ジオウ）という生薬になり、
強壯、解熱、止瀉等に用いられる。
中国原産の多年草。



クダモノトケイ（トケイソウ科）
ブラジル南部原産で、果実は食用にな
り、パッションフルーツと呼ばれる。不
思議な形をした花が咲く。



ハマボウフウ（セリ科）
根及び根茎が浜防風（ハマボウフウ）と
いう生薬になり、発汗、解熱等に用いら
れる。海岸砂地に生息する多年草。



ムラサキ（ムラサキ科）
根が紫根（シコン）という生薬にな
る。火傷や痔等の治療に使う紫雲膏
の原料の一つ。染料にも用いる。



ウスベニアオイ（アオイ科）
南ヨーロッパ原産で、花がハーブティー
に用いられる。ティーの色は青色で、酢
やレモン汁を入れると赤色に変わる。



イブキトラノオ（タデ科）
根茎が拳参（ケンジン）という生薬
になり、止血、解熱等に用いられる。
山地に生息する多年草。



アマ（アマ科）
種子は亜麻仁油の原料になる。油は
軟膏基剤や石鹸、絵具等に用いられ
る。繊維はリネンの原材料になる。



ドクダミ（ドクダミ科）
花期の地上部が十薬（ジュウヤク）と
いう生薬になり、利尿や解毒等に用い
られる。日陰に生える多年草。



ツクシイバラ（バラ科）
九州南部に野生するノイバラの変
種。薄い紅色の花を咲かせる。半つ
る性の落葉低木。